

互いに認め合い、高め合う生徒の育成 ～道徳教育の推進を通して～

美馬市立江原中学校

1 主題設定の理由

本校の生徒は明るく素直であり、互いに協力して何事にも真面目に取り組んでいる。保護者は教育に熱心で関心も高く、学校に対して協力的である。また、地域の方々にも日頃から理解・支援していただいている。本校では、めざす学校像を「あたたかく、清々しい学校～認め合い、高め合う～」とし、全教職員・生徒が合い言葉にしている。多くの生徒が主体的・意欲的に活動しているが、自分を表現することが苦手な友人関係に悩みを抱える生徒もいる。

そこで、豊かな体験活動や人・社会とのつながりを通して、自己肯定感や自己効力感を育み、道徳の授業を通して、自己を見つめ、道徳的価値を内面的に自覚し、人間としての生き方についての自覚を深めさせたい。そして、互いに思いやり、自他の良さを認め合うあたたかさや、互いに切磋琢磨し、共に高め合おうとする清々しさを身に付けさせたいと考え、本主題を設定した。

2 これまでの研究の概要

(1) 道徳の教科化に向けた「量的確保」のための取組

①年間計画の見直し

4月上旬、キャリア教育、人権教育、総合的な学習の時間、学校行事等との関連を踏まえ、各学年の年間計画を作成し、それを基に道徳教育全体計画の見直しを行った。

②推進委員会の設置

各学年の取組状況等について協議し、全教職員間の共通理解を図った。

③学びの蓄積の見える化

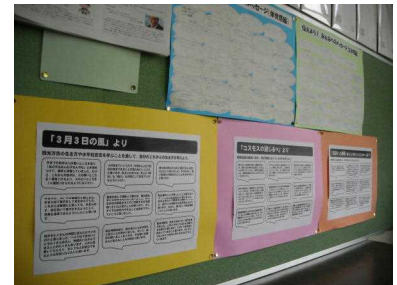
各学級の係活動として道徳係をおいた。また、授業時に「道徳⑮」のように本時が何時間目になるかを板書するとともに、道徳の授業で学習した内容項目や主な生徒の意見等をまとめて教室背面や廊下等に掲示することによって、これまでの学びの蓄積の見える化を図った。他学年の学びを共有することもできたため、大変有効だった。



1年廊下の掲示



2年教室内掲示



3年教室内掲示

(2) 体験活動や学校行事等の充実

①学校行事等の更なる充実

各種体験活動や学校行事等のねらいを生徒に明確に示し、全員が共有することにより、成就感や達成感を感じることができた。また、一人一人の生徒が自分の役割や責任を果たす中で協力し、相手のよさを認め合うことができた。各学校行事等の写真を1階廊下に掲示し、様々な場面での活躍の様子を振り返ることができるようにした。



対面式・生活科エンターション



体育祭



合唱コンクール



文化祭



人権意見発表会



1階廊下の掲示

②障がい者支援施設との交流活動を通した学び

2年生が校区内にある「障害者支援施設かしがおか」の利用者と交流を重ね、障がいのある人への理解を深めるとともに、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人が共生できる社会について考えることができた。初めは戸惑いがちだった生徒も文化祭の合同発表に向けて練習を重ね次第に打ち解け、心を合わせた素晴らしい発表を披露した。その後の作業場での交流では自分から話しかけたり笑顔で接したりする姿があちこちで見られた。



互いに自己紹介



文化祭での合同発表



作業所での合同作業

〔生徒の感想から〕

- ・学習を深めていく前は、障がいのある人を怖いと思ひ不安に感じていたが、文化祭に向けて練習を重ねていくにつれてとても楽しく過ごせるようになった。
- ・交流学习をすることで今まで障がいのある人のことを「かわいそう」と思っていた自分の考えが間違っていたのだと知ることができた。
- ・人権学習を通してもっと深く知り差別意識をなくしていかないといけないと気付いた。

③地域や社会とのつながりを通した学び

人権に関する講演、携帯・スマホ教室やマナー講習などを開催した。生徒は、様々な講師から相手の立場や心情に配慮したコミュニケーションの大切さについて学び、道徳の授業等で考え、話し合っていることを更に深めることができた。また、地域のボランティアの方による読み聞かせ（月1回）や、能舞台での狂言の観劇なども実施した。生徒からはこうした多様な経験ができることへの喜びや感謝の思いが伝えられた。



人権講演



能舞台での狂言



読み聞かせ



人権劇「千の舞い」



国際交流学习



職場体験先の事業所についての広告作り

④校外での各種体験活動を通じた学び

毎年ゴミゼロの日に学校周辺の清掃活動を行っている。地域の方が声をかけてくれることも多く、生徒も励みに感じている。職場体験学習では各事業所・店舗の方から様々なことを教えていただき、自分たちが地元の子供として大切にされていることを実感する貴重な機会となっている。また、保育実習では、年長者として幼い子供たちに気遣いながら一緒に過ごし、自分たちもこのように多くの人に愛されている存在であることを実感した。



ゴミゼロ活動



職場体験学習



保育実習

(3) 道徳の教科化に向けた「質的向上」のための取組

①授業力向上を目指した取組

(ア) 考え、議論する道徳の実践に向けて校内研修を行うとともに、全ての学級において研究授業2回・公開授業1回をそれぞれ実施するなど、教員の授業力向上を図った。



1年A組研究授業



2年B組研究授業



3年A組研究授業

(イ) 道徳（人権）学習指導案の様式について検討し、本校独自の様式を作成した。

- ・指導計画では、主題に関わる様々な教育活動をフローチャートで示す。
- ・本時の指導において、「ねらいとする道徳的価値」を明記する。
- ・展開では、「主な発問と予想される生徒の反応」を加える。など

(ウ) 6月、11月、2月に各1週間の「学び合いウィーク」を設定し、全教職員が空き時間を活用して自由に授業を参観し、良かったことや改善点等について伝え合った。全教科に共通する指導技術・方法について気付きがあり、非常に好評である。

〔教員の声から〕

- ・他人のよさを見つけるということの「よさ」を実感した。
- ・他人のやり方から自分のスタイルも逆にわかるなど、気づきが多い。
- ・自分のよさを再確認し、自尊感情が高まった。同僚への感謝の思いをもった。

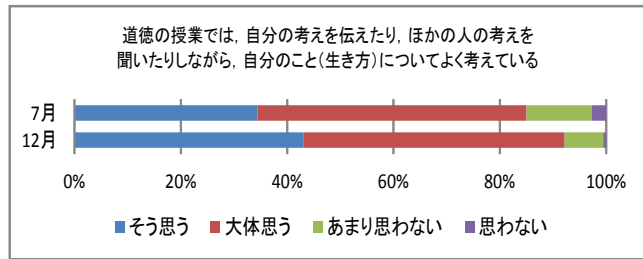
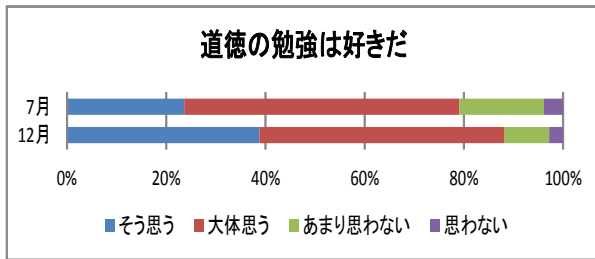
(エ) 12月23日（土）に、教員研修としてフィールドワークを実施した。午前には姫路市御着で柏葉嘉徳さんからお話を聞くとともに皮革工場が立ち並ぶ町を案内していただき、被差別部落が担ってきた皮革の歴史と文化について学んだ。午後からは三ノ宮にある賀川豊彦記念館を見学し、新川地区や専称寺などを訪ね、案内担当から説明を聞きながら、本県の「郷土の偉人」の一人である賀川豊彦氏の活動について深く学んだ。

②キャリア教育における「マイ 夢&キャリアシート」の活用

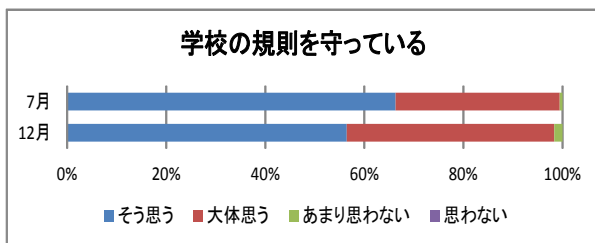
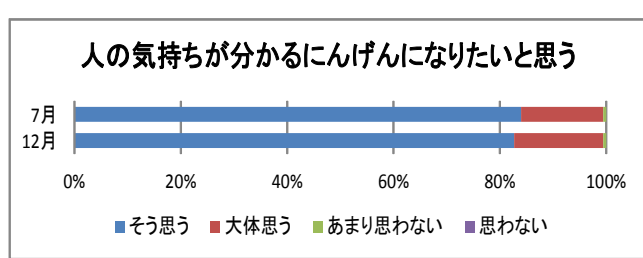
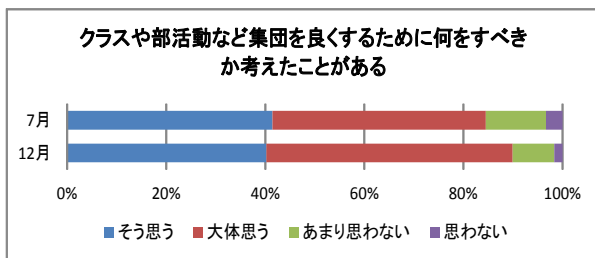
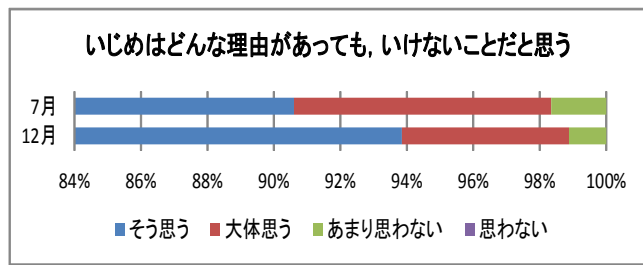
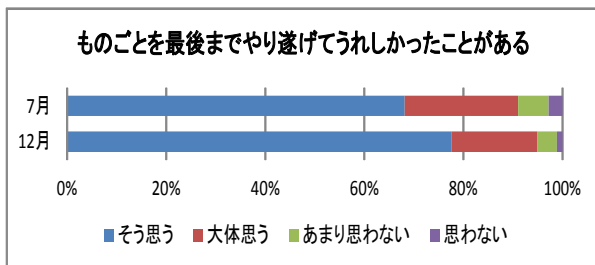
将来の自分や卒業時の自分を具体的にイメージし、それに向けて今何をすべきなのか、学期始めに目標を設定し、学期終わりに振り返りの機会をもつことで、生徒の自主的・自律的な取組への意識付けを図っている。

本シートや人権学習に関する意見・感想等については、個人用ドキュメントファイルに保管し、卒業時に中学校3年間の成長の軌跡として、一人一人に手渡すことにしている。

3 アンケート結果から

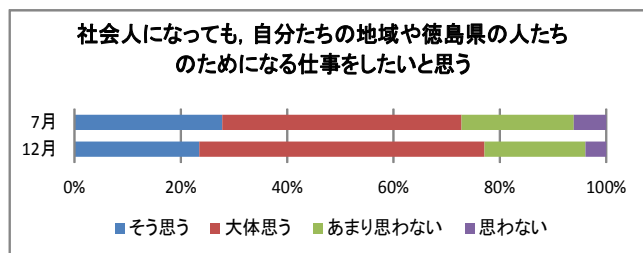
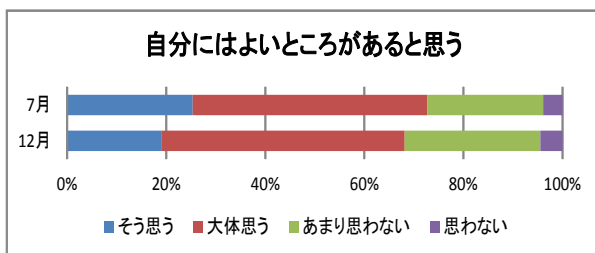


〔考察1〕全学級において道徳の時間等の「量的確保」が図られるとともに、教員の指導力向上による「質的向上」も実現されたため、生徒の道徳の学習に対する意識が大変主体的・意欲的になった。教員が生徒と考え話し合うことを大切にする中で、生徒の変化や成長に大きな手応えを感じていたが、アンケート結果からもそれが明らかになった。



〔考察2〕体験活動や学校行事等の充実を図り、道徳における気付きや学びと関連付けることで、生徒が自らの役割・責任を果たし、成就感・達成感を味わうことができた。

また、教室の中での学びが生徒の日常生活に活かされ、様々な面において肯定的で前向きに捉えている状況がうかがえる。



〔考察3〕自尊感情について、自分のよさに気付いていない生徒がまだまだ多くいるということが明らかになった。また、現在の学びを将来の自分につなげて広い視野で考えるという点においても十分でないと感じられる。そのため、生徒が自分のよさを認め、実感し、自分のことを好きになれるよう、全教職員がこれまで以上に根気強く働きかけていくとともに、キャリア教育の視点からも関連づけて考えることができるよう、より一層努めていきたいと考えている。

美馬市立江原中学校 〒779-3741 美馬市脇町字曾江名359-41 電話0883-52-1140

学校ホームページ <http://e-school.e-tokushima.or.jp/mima/jh/ehara/html/htdocs/>